

史實 調査 参考 資料 報告

摘要

所在地

職官

陸軍経技准尉

終戦時
の
記
入

所属部隊

第五飛行場大隊

氏名

支那事変
以降ニ於テ
自己ノ略歴

昭和十二年九月以降十月東京赤羽陸軍被服本廠分遣
職、変更及
主ナル参加
支那事変
以降ニ於テ
自己ノ略歴
昭和十二年九月以降十月東京赤羽陸軍被服本廠分遣
職、変更及
主ナル参加
支那事変
以降ニ於テ
自己ノ略歴

職、変更及
主ナル参加
支那事変
以降ニ於テ
自己ノ略歴

所属部隊

一 昭和十七年四月八日教導第五飛行場大隊編成
完結
二 裝備大隊本部 警備一中隊整備一中隊
三 兵器航空兵器整備一中隊

編成年月
日及編制裝
備ノ概要

最後ノ所属
部隊ヲ主ニシ
尚其ノ以前
ノ所属部隊
分ヲモ概記ス

自昭和十九年十月十日 喜島中飛行場ニ在リテ南
西諸島及喜島沖航空戦ニ参加
自昭和十九年三月十日 天孫航空作戦ニ参加
至同 五月二十日

所属部隊
作戰經過
概要

一 兵器奉還中アリテ現地自若、原他能勢ニ移行
益々現地自若ヲ強化セシムル共ニ衣食住確保ニ勉メ
國家再建ニ邁進シ遂ニ内地歸還ヲ準備ス
二 拘束セラルル米糧、監視下ニアリテモ思難クノ忍耐ハ
難キニ耐(最後迄テ帝國軍人美風ヲ發揮ス)

終戦(又ハ主
力ノ戦斗終
了)後ノ状
況

帰還輸送
ノ状況ヲモ
併記ス

歸郷(又ハ
連絡)先

其他ノ参
考事項

備考

各上陸地支局ハ各帰還將校ヲシテ本報告ヲ記載セシメ
才一復員省史実部ニ連送スルモノトス

史實調査參考資料報告

所屬(部、隊、固有名)		職官		摘 要	
全右所在地		氏 名		終戦時ノモノヲ記ス	
支那事變以降ニ於ケル自己ノ略歴		非維縣官古郡		職ノ變更及主ナル參加戰闘名ヲ記ス	
所在部隊ノ編成年月日及編制裝備ノ概要		氏 名		最後ノ所屬部隊ヲ主ニシテ以前ノ所屬部隊ノ分ヲモ概記ス	
所屬部隊作戦經過ノ概要		職 官		歸還輸送ノ狀況ヲモ併記ス	
終戦(又ハ主力ノ戰闘終了)後ノ概況		氏 名			
先 歸郷(又ハ連絡)		職 官			
其ノ他ノ參考事項		氏 名			
備 考		氏 名			

昭和二十一年一月十日分十三隊團長ニ任ぜられたる古郡
 昭和十四年十二月四日分十八隊團長ニ任ぜられたる古郡
 昭和十六年十一月一日分十六隊團長ニ任ぜられたる古郡
 昭和十七年四月九日分十六隊團長ニ任ぜられたる古郡
 昭和十九年四月九日分十六隊團長ニ任ぜられたる古郡
 昭和二十年四月九日分十六隊團長ニ任ぜられたる古郡
 昭和二十一年一月十日分十三隊團長ニ任ぜられたる古郡

昭和十八年十一月十日分十三隊團長ニ任ぜられたる古郡
 大隊中ノ一補給中隊ニ任ぜられたる古郡
 古郡機員院ニ任ぜられたる古郡
 古郡機員院ニ任ぜられたる古郡

満洲州編成より南滿州省官古郡ニ任ぜられたる古郡
 中隊及び飛行場ニ任ぜられたる古郡
 補給中隊機員院ニ任ぜられたる古郡
 古郡機員院ニ任ぜられたる古郡
 古郡機員院ニ任ぜられたる古郡

古郡機員院ニ任ぜられたる古郡
 古郡機員院ニ任ぜられたる古郡
 古郡機員院ニ任ぜられたる古郡
 古郡機員院ニ任ぜられたる古郡
 古郡機員院ニ任ぜられたる古郡

古郡機員院ニ任ぜられたる古郡
 古郡機員院ニ任ぜられたる古郡
 古郡機員院ニ任ぜられたる古郡
 古郡機員院ニ任ぜられたる古郡
 古郡機員院ニ任ぜられたる古郡

古郡機員院ニ任ぜられたる古郡
 古郡機員院ニ任ぜられたる古郡
 古郡機員院ニ任ぜられたる古郡
 古郡機員院ニ任ぜられたる古郡
 古郡機員院ニ任ぜられたる古郡

71

71

將校ニ記載セシメ第一復員省史實部ニ送付ス

史實調査參考資料報告

摘要

所屬部隊
(固有名稱)

第二五五飛行場大隊

職官
中隊附 中尉

終戦時ノモノヲ
記ス

全右所在地

神尾縣 宮古島

氏名

[Redacted Name]

職ノ變更及主ナル
参加戦闘名ヲ
記ス

支那事變以降ニ
於ケル自己ノ略
歴

昭和十八年三月一日見習士官ヲ命ぜらるレ
同日附三十三海軍航空隊ニ移属
昭和十九年四月四日駐屯地出張官古島上陸
中隊附自衛隊中隊長
台湾沖飛行隊中隊長
昭和十九年二月二十五日第二五五飛行場大隊編成
乙編成

所在部隊ノ編成
年月日及編制裝
備ノ概要

整備中隊 高射砲砲三挺 軽機三挺 銃三百
神尾中隊 貨車十八輛 列車二輛 車二輛 甲子三
輛 給水車一輛 給油車三
輛

所屬部隊作戦經
過ノ概要

対洲駐屯地出張官古島上陸
官古島西中飛行場設置、他要港ヲ攻撃
艦、彈、神尾、高射砲、給油、給水、射撃、射撃
台、海軍航空隊時、神尾、海軍航空隊
ニ協力、天二号作戦時、台湾飛行場ノ編成
ニ協力、持城機其他の攻撃に協力ス

最後ノ所屬部隊
ヲ主ニシ向ソノ
以前ノ所屬部隊
ノ分ヲモ併記ス

終戦(又ハ主力
ノ戦闘終了)
後ノ概況

部隊主力(下士官等)ハ昭和二十一年十一月一日官古
島出張、特赦(五名)降参、昭和二十一年十一月六日
官古島出張、五名ノ特赦ハ神尾、官古島ニ送付
セシ、神尾收容所ニ収容セラルル、三月月後
昭和二十一年三月二十三日神尾上陸(歩船三航)

歸還輸送ノ状況
ヲモ併記ス

歸郷(又ハ連絡)
先

[Redacted]

其ノ他ノ参考事
項

備考

將校ニ記載セシメ第一復員省史實部ニ送付ス

史實調査參考資料報告

摘要

所屬(部隊固有名称)

二百五飛行場大隊

職官

中隊附陸軍中尉

終戦時ノモノヲ記ス

全右所在地

北邊縣宮古島

氏名

[Redacted Name]

職ノ變更及主ナル參加戰鬪名ヲ記ス

支那事變以降ニ於ケル自己ノ略歴

昭和十七年一月三日支那獨立歩兵四十七大隊ニ入隊
昭和十八年八月一日中支那獨立歩兵百十三大隊ニ轉屬
昭和十八年十一月一日陸軍航空本部ニ轉屬
昭和十九年三月二十日陸軍航空本部ニ轉屬
昭和十九年八月八日二百五飛行場大隊ニ轉屬
昭和十九年八月二十日陸軍航空本部

所在部隊ノ編成年月日及編制裝備ノ概要

所屬部隊作戰經過ノ概要

支那獨立歩兵(第一三三師団)
中支那獨立歩兵(清野)工作戦討伐ニ參加
昭和十九年二月一日宮古島中隊附補着
同島禁備一天一歩作戦ニ參加

最後ノ所屬部隊ヲ主ニシ向ソノ以前ノ所屬部隊ノ分ヲモ概記ス

終戦(又ハ主力ノ戰鬪終了)後ノ概況

宮古島治安維持現地自治
昭和二十年十二月二十日同島警備隊ニ入隊
昭和二十一年三月二十日同島警備隊ニ入隊
昭和二十一年七月補員上陸

歸還輸送ノ狀況ヲモ併記ス

先 歸郷(又ハ連絡)

[Redacted]

其ノ他ノ參考事項

備考

將校ニ記載セシメ第一復員省史實部ニ送付ス

史實調査參考資料報告

摘要

所屬部隊
(固有姓名)

第二百五飛行場大隊

職官

中隊附陸軍少尉

終戦時ノモノヲ
記ス

全右所在地

宮古島

氏名

[Redacted Name]

職ノ變更及主ナル
参加戦闘名ヲ
記ス

支那事變以降ニ
於ケル自己ノ略
歴

昭和十八年十二月二十九日見習士官任官(西洲)
昭和十九年四月四日駐屯地出立宮古島上陸
兵器委員 中隊附
台湾沖航空作戦協力
天一子作戦 協力

所在部隊ノ編成
年月日及編制裝
備ノ概要

昭和十九年二月二十五日 第二百五飛行場
大隊編成 大隊本部 整備中隊
補給中隊
(發言中) 官制機用砲三 軽機三 小銃數百
(神中) 貨車一八 牽引車三 側車二 兼用車二

所屬部隊作戦經
過ノ概要

満洲駐屯地出立 宮古島上陸
宮古島西中飛行場ノ設定作業 他飛機
燃彈補給留置官培養 敵機討空射撃
台湾沖航空戰時燃彈補給海軍航空隊
協力 天一子作戦時 第十六軍ニ編入
第飛行師團ノ指揮下ニ入り 特攻機 其他攻勢ニ協力

最後ノ所屬部隊
ヲ主ニシ向ソノ
以前ノ所屬部隊
ノ分ヲモ概記ス

終戦(又ハ主力
ノ戦闘終了)
後ノ概況

部隊主力(下官兵)ハ昭和廿年十一月 日宮古島
出立 將校(五名除)ハ昭和廿年十一月 日宮古島
出立 他ノ五名ノ將校ハ沖繩本島ニ送附せり
補給收容計ニ收容せり 三月内生活シ
昭和廿一年三月二十七日浦賢上陸 帰郷ニ着手

歸還輸送ノ状況
ヲモ併記ス

先
歸郷(又ハ連絡)

[Redacted]

其ノ他ノ參考事
項

備
考

將校ニ記載セシメ第一復員省史實部ニ送付ス

30

戰史資料

第二百五飛行場大隊

羽田

SHIMIZU BROS. CO. LTD. TOKYO, JAPAN

戰史資料

一部隊名及部隊長名

第二百五飛行場大隊 大隊長陸軍大尉 小笠原善藏

一部隊履歴の概要

昭和十七年三月三十一日軍令陸甲第十八號ニ據リ第二十二飛行場大隊ヨリ本部及整備中隊第二十二飛行場大隊ヨリ整備中隊ヲ各一昭南島「カラン」飛行場ニ於テ編成教導第二百五飛行場大隊ト稱號ス(當時部隊長陸軍少佐 小西二八)内地ニ在リテ未着任テシテ以テ整備中隊長陸軍中尉 植月哲太郎部隊指揮ヲ取ル)

註 編成人員及裝備ハ次頁料ナキ為不明

同十七年四月十六日滿洲移駐タメ昭南島出帆同年五月二日大連港上陸五月十日駐屯地興安南省斜爾沁右翼前旗鎮西着同日ヨリ同地附近ニ在リテ第二年次演習演ニ参加ト共ニ教導飛行

第二百四戰隊ニ協力ス

同年十月將校以下約三十名ヲ牡丹江省石頭飛行場ニ派遣ス

昭和十八年一月十七日將校以下三十名海拉爾飛行場ニ派遣ス

同年八月十六日第二航空軍「五」號演習ニヨリ部隊ハ本部第一及第

二飛行場中隊トナリ第一飛行場中隊ハ三汪省富錦ニ一部ヲ鎮西ニ

本部及第二飛行場中隊ハ哈爾濱孫家ニ移駐シ石頭及海拉爾派遣

隊ハ夫々本隊ニ復歸ス

同年九月二十五日「七」號部隊編成要領ニ依リ更ニ第三飛行場部隊

ヲ編成ス

同年十月十五日協力戰隊(教導第二百四戰隊)ハ南方ニ出動タメ

出發ス

昭和十八年一月二十五日軍令陸甲第一二〇號ニ據リ大隊ハ教導、

梅號ヲ解キ第二百五飛行場大隊トナリ且第十三飛行場大隊ヲ編

成ヲ担任シ一月三十一日編成完結ス

同年二月十五日鎮西及富錦派遣隊ヲ撤収シ三汪省方正、南天

門及延壽各一部ヲ派遣ス又二月十四日氣象班、一部ヲ哈爾

濱飛行場ニ派遣ス

同年三月二十六日四飛師作命甲第一六二號ニ依リ南西諸島轉進ヲ

命セラル 四月三日屯營出發 四月十日釜山出帆 四月二十二日

那霸上陸 五月七日那霸出帆 同八日宮古島上陸

上陸後直々ニ宮古島西飛行場設定作業開始 六月十日中飛行場

設定作業開始 七月十四日西飛行場一部完成 七月初ヨリ海軍飛

行場ヲ飛行第三戰隊ノ地上勤務ニ協力 七月二十五日中飛行場

概成ス

八月一日以降 西中飛行場ノ設定作業ヲ全面的ニ特設飛行場設定

隊ニ引継キ大隊ハ主力ヲ以テ之ニ協力一部ヲ以テ依然ハ飛行場勤務

ニ協力ス

自昭天百口 公三灣沖航空戰三參加

至昭天百口

同年十月十六日侍從武官御差遣中飛行場ニ着陸
爾後宮古島中飛行場ニ在リテ南方内地住後他未機ノ補給給養
衛生ニ場カス

昭和二十年 三月十六日 六月二十日 間天翔航空作戦ニ参加同八月十五日終戦

同年十一月二十六日内地歸還ヲ命マラル十二月二日宮古島出帆

十二月八日浦賀上陸

一 部隊長ノ官底名年月日

自昭十七、三三十一 陸軍少佐 小西ニハ

自昭十八、三、一 陸軍大尉 吉岡軍一郎

昭十九、十二、一 任陸軍少佐

自昭二十、十一、二八 陸軍大尉 小笠原善藏

一 指揮隷屬関係及其ノ変遷ノ概要

昭和十七、三、三十一 第三飛行集團長ノ隷下

令 十七、五、二 関東軍司令官ノ隷下ニ入り同日第四飛行師

團長ノ隷下ニ入り同日白城子教導飛行團
長ノ指揮下ニ入ル

昭和十七、五、三十 白城子教導地ニ司令官ノ指揮下ニ入ル

令 十七、十二、三 教導飛行團長及教導地ニ司令官ノ指揮下ヲ

脱ス(南方進駐)

令 十八、二、十 第五飛行團長及第十八航空地ニ司令官ノ指

揮下ニ入ル

令 十八、十一、一 第五飛行團長ノ指揮下ヲ脱ス

令 十八、三、一 第十八航空地ニ司令官ノ指揮ヲ脱シ第四飛行

師團長直轄トナル

令 十九、四、十 第四飛行師團長ノ隷下ヲ脱シ第三十二軍司令

官ノ隷下ニ入ル(南西進駐)

令 十九、四、三 要塞建築第八中隊ヲ指揮下ニ入ラシメラル

令 十九、六、五 独立混成第四十五旅團長ノ指揮下ニ入ル